

ヲ許ス而シテ之ニ通スル汽船ハ香港ヨリ三水、梧州ニ至ルヘキカ又ハ廣州ヨリ三水、梧州ニ至ルヘキカハ追テ清國海關ヨリ之ヲ選定告示ス

(二) 尙江門、甘竹灘、肇慶府及德慶府城外ノ四ヶ處ヲ以テ停泊港トナシ楊子港停泊港章程ニ照シ一律辦理ス

(參照) 總稅務司出版條約彙卷ノ一、三四〇頁  
特種條約彙纂一五八頁

清國、安南間ノ境界並ニ通商ニ關スル條約

目次

清安條約成立ノ由來 ..... 六九

第一、安南事件ニ關スル天津協約(一、八八四年) ..... 七二

第二、平和修交並ニ通商ニ關スル天津條約(一、八八五年) ..... 七三

第三、天津條約補遺約款(一名コゴル)(一、八八六年) ..... 七五

第四、境界並ニ通商ニ關スル追加條款 ..... 七九

甲、追加境界約款(一、八八七年) ..... 七九

乙、追加通商約款(同前) ..... 七九

附屬往復文(同前) ..... 八一

第五、境界並ニ通商ニ關スル修正約款 ..... 八三

甲、修正境界約款 ..... 八三

乙、修正通商約款(一、八九五年) ..... 八三

清安條約成立ノ由來

交趾ノ地 安南ハ古、交趾ノ地ニシテ宋ノ時代ニ至リ四隣ヲ征服シ勢漸ク隆盛ニ赴キシカハ宋帝ハ其封域ヲ承認シ賜フニ安南國王ノ號ヲ以テセリ安南ノ國號茲ニ始マル其後王統屢々替リ世亦盛衰アリシト雖支那ノ封册ヲ受ケ支那ニ朝貢スルコトハ變更ナカリキ

佛國ノ東方經營 然ルニ十七世紀ノ交ニ至リ蘭、西、英、佛等ハ相競フテ東方經營ヲ企テ就中佛國ハ早ク安南ノ地ニ意ヲ注キ各國ニ先ツテ宣教師、探險隊ヲ此地ニ派遣セリ其後十八世紀ノ末ニ至リ偶々安南ニ内亂アリ佛人等ハ王ヲ助ケテ其領土ヲ回復シ清國ノ承認ヲ得テ越南國王ト稱セリ時ニ一、八〇二年ナリ

排洋主義 其後ニ至リ越南國王ハ頻リニ排洋主義ヲ鼓吹シ佛人ヲ逐ヒ天主教ヲ嚴禁シ宣教師ヲ幽閉シ教民ヲ死刑ニ處シタリ依テ佛國公使ハ一、八五六年使節ヲ順化府ニ遣ハシ其暴政ヲ制止セントセシモ安南政府ハ獨リ使節ヲ受ケサルノミナラス益々暴行ヲ逞クシ佛國宣教師ニ仇シ其首領タル教正ヲ殺害シタリ其翌年又西班牙國ノ宣教師ヲ殺シ其他國中ノ基督教徒ヲ虐殺セリ是ニ於テ乎佛國政府ハ大ニ怒リ西國ト同盟シテ問罪軍ヲ起シ大ニ之ヲ膺懲シ終ニ一、八六二年ヲ以テ柴棍ニ於テ和約ヲ締結シ佛國ハ安南各部ノ地ヲ割取セリ

安南ノ獨立 其後東京地方ニ黃旗黨ノ亂アリ佛人ハ之ニ通シ一、八七三年ヲ以テ河内城ヲ占領シ次テ三角洲中ノ要地ヲ降セシカ佛國政府ハ翌七十四年二月使ヲ東京ニ遣ハシ佛人ヲ引上ケシ翌二月

安南ノ保  
護

十五日ヲ以テ兩國ノ使臣柴棍ニ會シ佛安和親盟約條款二十二條ヲ締結セリ本條款ニヨリ安南ハ佛國ヨリ獨立ヲ承認セラレ其代リニ軍事外交ノ權ヲ佛國ニ委シ下交趾六州ノ地ヲ割讓セリ  
安南ハ佛國ノ甘言ニ致サレ右盟約條款ヲ結ヘルモ自ラ顧ミテ大ニ國威ヲ失墜セルヲ悔悟シ國王以下皆挽回ノ機ヲ俟テリ時ニ劉永福ナル者長髮賊ノ亂ニ義功アリ清國政府モ之ニ與フルニ相當ノ職位ヲ以テセシモ清國ニ於テ牛後ニ落ツルヲ潔トセス安南ノ地ヲ得テ之カ雞頭タラント欲シ長髮賊ノ餘徒ヲ率ヒテ清境ヲ越ヘ老開ヲ根據トシ安南ヲ蹂躪セリ所謂黑旗軍即是ナリ安南ハ爲メニ大ニ苦ミシモ一策ヲ案シ之ヲ利用シテ佛人ヲ國外ニ驅逐セントシ一面劉ト結ンテ鋒ヲ外人ニ向ハシメ一面ニハ内亂ニ托シテ頻リニ兵備ヲ修メタリ佛國ハ大ニ之ヲ憤リ遂ニ河内城ヲ陷ル其報順化政府ニ達スルヤ滿廷激怒令ヲ黑旗軍ニ傳ヘテ佛軍ニ抗セシム恰モ好シ清國ヨリ援兵陸續安南ニ入りタレハ黑旗軍之ト力ヲ合セ佛軍ト戰ヒタリ在北京佛國公使ハ朝廷ニ對シ清兵ヲ安南ニ入ル、ノ不當ナルヲ責ムルモ清廷ハ邊境保護ノ爲メナリト稱シテ毫モ動カス依テ佛國ハ更ニ軍勢ヲ増加シテ四方ヲ征伐シ進ンテ順化府ヲ攻撃セリ安南政府ハ之ヲ支フルコト能ハスシテ遂ニ和ヲ請ヒ一八八三年八月二十五日ヲ以テ順化府ニ於テ佛安同盟媾和條約ヲ締結セリ本條約ニヨリ安南ハ佛國ノ保護ニ歸シ司法、稅務、警察等ヨリ一般内政ニ迄佛國ノ干涉ヲ受クルニ至レリ斯ノ如クニシテ清國從來ノ抗議ハ全ク水泡ニ歸シ清國ニ對シ一層不利ナル條約ノ締結ヲ見ルニ至レリ

安南事件  
天津協約

清國ハ一八七四年ノ和親盟約條款ヲサヘ承認セス況ンヤ今回ノ同盟媾和條約ノ成立ヲヤ西太后以下多數ノ大臣ハ之ヲ聞ヒテ大ニ憤リ終ニ干戈ニ訴フルニアラスンハ兩國ノ紛議ヲ解決スル能ハストシ雲南、兩廣總督ニ命シ兵備ヲ整ヘ時機ヲ見テ將ニ大舉南下セシメントス然ルニ李鴻章ハ開戰ヲ非トシ平和案ヲ佛國公使ニ提出セシモ談判遷延決スル所ナシ時ニ西太后ハ私ニ南方督撫ニ命シ安南清軍ヲ増加セシメ黑旗軍ヲ助ケテ佛軍ヲ襲ハシム依テ佛軍ハ更ニ進撃シ遂ニ臺灣雞籠港ヲ奪ヒ福州ヲ砲撃セシカ清國ニテハ和議ノ論廟堂ニ沸騰シ終ニ李鴻章ノ平和說ヲ容レ一八八四年五月天津ニテ平和條約ヲ結ヒ佛國ノ安南ニ對スル保護權ヲ承認セリ

平和修交  
並ニ通商  
天津條約

右協約ノ結果清國ハ同年六月二十日ヲ以テ東京ノ清兵ヲ撤退スルコト、ナリシモ清國ニテハ主戰論者頻リニ右協約ニ反對シ又佛國ニテモ右協約中ニ不充分ノ點アリトテ之ヲ抗擊スルモノアリ終ニ再ヒ戰端ヲ開キ所謂清佛戰爭トナリシカ一八八五年六月天津ニ於テ平和條約ヲ締結シ其局ヲ結フニ至レリ

(特種條約彙纂說明參照)

第一、安南事件ニ關スル天津協約

前文ニ曰ク「茲ニ人心搖惑シ事故紛紜タルニ際シ清國皇帝及佛國政府ハ兩國間ノ和好ヲ永敦ナラシメンカ爲メ互ニ員ヲ派シ豫定條約ヲ議立セシメ以テ他日確定條約ヲ再立スルノ基礎トナス」

其要項ニ曰ク

- (一) 佛國政府ハ(Tonking 東京)ニ接スル清國ノ南境ヲ保全助護スルコトヲ約ス
- (二) 清國ハ直ニ東京駐在兵ヲ引上ケ且ツ佛國ト安南トノ間ニ於ケル現在並ニ將來ノ各條約ニ干涉セサルコトヲ約ス
- (三) 清國ハ東京ニ接スル邊界ニ於テ安南人及佛國人ノ通商ヲ許シ且ソ他日員ヲ派シテ詳細ナル商約ヲ議定セシムヘキ旨ヲ約セリ(第三條)
- (四) 本協約調印後三ヶ月ヲ經テ兩國ヨリ更ニ員ヲ派シ確定條約ヲ締結スルコトヲ約ス
- (五) 本協約ハ佛文ヲ以テ正文トナシ一、八八四年五月十一日(光緒十年四月十七日)天津ニ於テ清國全權大臣李鴻章ト佛國全權大臣「フールニエー」トノ間ニ調印セラレ翌年四月十三日(清曆二月二十八日)ヲ以テ清國皇帝ヨリ裁可セララル

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、六八二頁及六八八頁

特種條約彙纂三〇八頁(誤記アリ)

第二、平和、修好並ニ通商ニ關スル天津條約(清佛戰爭善後條約)

前文ニ曰ク「佛清兩國ハ同時ニ安南事件ニ干涉セシヨリ漸ク不和ヲ生セシカ今ヤ之ヲ除去スルト共ニ兩國好交通商ノ舊誼ヲ修明セシカ爲メ一、八八四年(光緒十年)ノ天津豫定協約ニ基キ本條約ヲ締結ス」

其要項ニ曰ク

- (一) 佛清兩國ハ互ニ國境ノ秩序維持ヲ計リ又國境ヲ越ヘテ兵ヲ出スヲ得ス  
罪人引渡條約ノ締結ヲ豫約ス  
安南ニ於テ平和ニ農、商、工ニ從事スル清國人ノ身體及財產ニ對シ佛國ハ其被保護人ト同一ノ保護ヲ與フヘシ
- (二) 清國ハ現在及將來ニ於ケル佛國安南間ノ各約款ヲ尊重ス
- (三) 調印後六ヶ月以内ニ双方ヨリ員ヲ派シ清國及東京ノ境界ヲ勘定シ標ヲ立ツ若シ立標ノ位置及兩國共益ノ爲メ東京ノ現境更定方ニ關シ意見合ハサルトキハ各本國政府ニ報告スヘシ(第三條)
- (四) 境ヲ越ヘテ清國又ハ東京ノ内地ニ入ラントスルモノニ對シ必要ナル護照發給ヲ互約ス
- (五) 佛、安、清人ノ越境貿易ヲ許ス但シ該貿易ハ追テ選定スヘキ場所ニ限ル而シテ其ニツハ必ス老開(Lao Kai)及諒山(Lun Y Son)ニ對スル清國境上ニ選定スヘシ

清國ハ又佛國ノ同意ヲ得テ東京ノ主要ナル都市ニ領事ヲ置クコトヲ得(第五條)

陸路通商  
章程

(六) 東京ト雲南、廣西及廣東三省間ニ於ケル陸路通商章程ヲ三月以内ニ協定シ本條約ノ付  
屬トス(第六條)

稅則

東京ト雲南、廣西二省間ニ於ケル陸路貿易品ニ對スル稅率ハ現行關稅ヨリ低クスヘシ  
但シ之ヲ以テ東京、廣東間ノ陸路貿易ニ適用スルヲ得ス

軍需品

銃砲其他軍需品ノ輸入ニ付テハ其國ノ法令ニ從フヘシ

阿片

阿片ノ輸出入ニ付テハ通商章程内ニ之ヲ規定スヘシ

海路貿易

清國、安南間ノ海路貿易ニ付テハ他日章程ヲ議定スル迄現行慣例ニ從フ

鐵道

(七) 佛國ハ東京ニ道路ヲ開通シ鐵道ノ布設ヲ獎勵スヘシ清國ニ於テ鐵道ヲ布設セントスルト  
キハ佛國鐵道業者ニ計リ佛國ヨリ工人ヲ招募スルトキハ佛國政府ハ之ヲ勸助ス  
本條項ハ佛國ノ獨占の特權ヲ構成スルモノニ非ス

有効期間

(八) 本條約ハ十年毎ニ修正ス

撤兵

(九) 佛軍ハ調印後直ニ基隆ヲ退出シ又一ヶ月以内ニ全軍ヲ臺灣島及澎湖島ヨリ撤去スヘシ

舊條約

(十) 本條約ニ依リ變更セラレタル舊條約章程ハ總テ有効トス(第十條)

調印

(十一) 本條約ハ一、八八五年六月五日(光緒十一年四月二十七日)天津ニ於テ清國全權大臣李  
鴻章、總理衙門大臣錫及鄧ト佛國全權大臣「バトノートル」トノ間ニ調印セララル

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、六八九頁

特種條約彙纂三一九頁

開市場ノ  
協定

第三、天津條約補遺約款(一名コゴルタン條約)  
前文ニ曰ク「一、八八五年(光緒十一年)締結平和、修交並ニ通商ニ關スル條約第六條ニ基キ東  
京ト雲南、廣西、廣東三省間ノ陸路通商章程ヲ議定スルコト左ノ如シ」  
其要項ニ曰ク

清國領事

(一) 前條約第五條ニ規定セル開市場ノ選定ニ付テハ本條約調印ノ際未タ勘界ナラセザカ故諒  
山以北ノ通商場ハ本年内ニ清國政府ト佛國公使トノ間ニ協議決定シ老開ノ上方ニ於ケル分  
ハ勘界終了後ヲ待ツテ再訂ス

全安南ノ  
開放

(二) 清國ハ河内(Hanoi)及海防(Hai phong)ニ領事ノ置キ又佛國ト商議ノ上其他主要ノ地ニ  
之ヲ置クコトヲ得

自由遊歴  
地帶

(三) 清人ハ安南各地ニ於テ土地ヲ所有シ家屋ヲ建築シ商店ヲ開設スルヲ得清國官民ノ信書電  
信ハ佛國郵電局之ヲ取扱フ

清國へノ  
輸入稅  
(後ニ修  
正セラ  
ル)

(四) 清國ハ境上ニ開放セル地方ニ居住スル佛國人等ハ護照ヲ有セスシテ其周圍五十浬里内ヲ  
游歴スルヲ得

(五) 第六條ニ依レハ雲南廣西ニ輸入スル物品ニ對シテハ海關稅ノ五分ノ一ヲ減シタル稅ヲ  
課ス海關稅則ニ掲ケタルモノニ對シテハ從價五分稅ヲ課ス  
海關一般稅則ニ照ラシ内地稅ノ抵代ヲ許ス(即チ輸入正稅ノ半分ニ當ル内地子口稅ヲ納メ  
自由ニ内地ニ運貨スルヲ得)

清國ヨリ  
ノ輸出税  
(後ニ修  
正セラル)

車馬税

新税則

轉運

清國へ再  
輸入(後  
ニ修正セ  
ラル)

東京へノ  
輸入税及

東京ヨリ  
ノ輸出税

東京通過

免税品

阿片(後  
ニ修正セ  
ラル)

禁制品

裁判管轄

(六) 第七條ニ依レハ輸出品ニ對シテハ海關税ノ三分ノ一ヲ減シ税則ニ掲ケサルモノニ對シテハ從價五分税ヲ課ス

海關一般税則ニ照ラシ内地税ヲ抵代スルヲ得(即チ輸出正税ノ一半ニ當ル抵代税ヲ修メ自由ニ内地ヨリ運貨スルヲ得)

境ヲ越ヘテ運貨スル車馬ニ對シ清佛兩國共ニ通行税ヲ課スルヲ得ス但シ水路ニヨル小船ハ兩國ノ海關章程ニ照ラシ噸税ヲ拂フヘシ

清國西南境上ノ陸路貿易ニ對シ清國ト他國トノ間ニ新税則協定セラル、トキハ佛國亦其適用ヲ受クヘシ

(七) 一旦清國境界税關ニ輸入税ヲ納メ輸入シタル外國商品ニシテ三十六ヶ月以内ニ他ノ清界税關ニ轉運セラル、モノニ對シテハ更ニ輸入税ヲ課セス但シ他ノ開港場ニ向フモノニ付テハ此限ニ非ス内地子口税ニ付テモ亦同シ

(八) 清國商品ニシテ一旦國境税關ニテ内地通過税及輸出税ヲ納メタル後更ニ他ノ國境税關ニ轉運セラル、モノハ再輸入税トシテ疊ニ納メタル輸出税ノ半額ヲ納ムヘシ

右商品ニシテ清國開港場ニ轉運セラル、時ハ外國商品ト同視シ全輸入税ヲ納ムヘシ

清國海港ヨリ安南海港ニ輸入セル清國商品ニシテ更ニ陸路國境ヲ越ヘテ清國ニ轉運セラル、モノハ外國商品ト同視シ地方輸入税ヲ納ムヘシ(第九條)

(九) 清國商品ニシテ陸路東京ニ入ルモノハ佛安税則ニ照ラシ輸入税ヲ納ムヘシ但シ右商品ニシテ更ニ東京ヲ去ル場合ニハ何等輸出税ヲ課セス(第十一條)

(十) 清國商品ニシテ國境税關ヲ出テ東京ヲ通過シテ他ノ國境税關又ハ安南海港ニ運送シ夫ヨリ更ニ海國ニ再輸入セラル、モノニ對シテハ從價百分ノ二ヲ越ヘサル過境税(特別通過税)ヲ課ス但シ東京ニ入ル際先ツ輸入正税ヲ納メ置キ保證トナスヘシ

清國海港ヨリ安南海港ニ運送シ東京ヲ通過シテ更ニ清國ニ再輸入セラル、清國商品ニ對シテモ亦右同一ノ取扱ヲ與フ

(十一) 清國側ノ輸出入免税品ハ(一)八五八年英清天津條約附則第二條ト同一ニシテ金銀貨幣行李ヲ除ク外清國內地ニ輸送セラル、場合ニハ從價百分ノ二半ノ税ヲ課ス

安南側ノ輸出入免税品ハ旅行者ノ携帶スル貨幣、行李、衣服、首飾、紙筆、墨、書籍、其他自川家具及食物ニシテ且ツ清國領事館自用品ニ對シテハ全テ免税ス

(十二) 阿片ノ越境輸出入ヲ禁ス

(十三) 清國ハ米其他穀類ノ輸出ヲ禁シ之カ輸入ニ對シテハ免税ス

清國ハ火藥、彈丸、銃砲、硝石、硫黃、鉛、白鉛、武器、鹽及不道德ナル出版物ノ輸入ヲ禁ス

佛國ハ武器、彈藥及不道德ナル出版物ノ東京輸入ヲ禁ス

(十四) 安南ニ居住スル清國人ハ刑事上、金錢上、其他ノ訴訟事件ニ於テ最優國民ト同一ノ取扱ヲ受ク

清國々境開市場内ニ於テ清國人ト佛國人又ハ安南人トノ間ニ起レル訴訟事件ハ清國及佛國

官吏之ヲ會審ス(Mixed Court)佛國人又ハ其保護人ノ清國々境開市場内ニテ犯シタル重罪若クハ輕罪ハ一、八五八年六月二十七日(咸豐八年)ノ條約第三十八、及三十九條ニ照ラシテ辦理ス(治外法權)

罪人引渡

(十五) 清國々境開市場ニ於テ清國犯罪人カ佛國人又ハ其保護人ノ家屋又ハ船舶中ニ隠匿シタルトキハ清國地方官ハ佛國領事ニ照會シ領事ハ罪狀ヲ查明シ之ヲ地方官ニ引渡スヘシ  
安南ニ逃來セル清國犯罪人ハ清國官憲ノ請求ニ依リ佛國官憲罪狀查明ノ上之ヲ引渡スヘシ

輕罪若クハ重罪ヲ犯シタル佛國人又ハ其保護人ニシテ清國ニ逃亡シタルトキハ清國官憲ハ佛國官憲ノ請求ニ依リ罪狀查明ノ上之ヲ逮捕シ佛國官憲ニ引渡スヘシ

有効期間

(十六) 十年後修正ヲ約ス

(十七) 本條約ハ一、八八六年四月二十五日(光緒十二年三月二十二日)天津ニ於テ清國全權大臣李鴻章ト佛國公使「フランソア、ゼヨーザ、ユゴルダン」及其補助領事「フランソア、エドモンド、ブリーウエー」トノ間ニ調印セラル佛國ニテハ一、八八八年十一月二十日發布法律ニヨリ之ヲ批准ス

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、七〇二頁  
特種條約彙纂 三三三頁

第四、境界並ニ通商ニ關スル追加約款

甲、追加境界約款

前文ニ曰ク「清佛兩國勘界員ハ一、八八五年(光緒十一年)締結「平和、修交並ニ通商ニ關スル天津條約」第三條ニ基キ清安間ノ境界ヲ會同勘定シ了リタルヲ以テ兩國政府ハ更ニ代表者ヲ出シテ本件ニ關シ左ノ通り協定スル所アラシム」

境界確定

第一、兩國勘界員ノ議定書及其調製セル地圖ヲ校閲シ之ヲ承認ス

同變更

第二、兩國勘界員ニ於テ意見合ハサル處及一、八八五年(光緒十一年)締結條約第三條ニ載スル所ノ東京ノ境界改正ノ件ニ對シ三ヶ條ノ辦法ヲ制定ス

(三ヶ條ハ專ラ境界ノ變更ニ關スルヲ以テ之ヲ畧ス)

一、八八七年六月二十六日(光緒十三年五月六日)北京ニ於テ佛國公使「コンスタン」ト管理總理衙門慶親王及同衙門大臣孫毓汶トノ間ニ調印セラル

調印

(參照) 總稅務司出版條約集七二二頁  
特種條約彙纂 三三五頁

乙、追加通商約款

前文ニ曰ク「兩國間ノ通商往來ヲ興盛シ且ツ一、八八六年(光緒十二年)締結天津條約ヲ切實施行スル爲メ茲ニ追加通商約款ヲ商定セシム」

其要項ニ曰ク

- 天津條約ノ實施
  - (一) 本約款ニテ改正セラレタルモノヲ除クノ外一、八八六年(光緒十二年)締結天津條約ハ批准交換後直ニ實施施行スヘシ
  - (二) 天津條約ニ照ラシ廣西省龍州(Long-tcheou)雲南省蒙自(Mong-tseu)ヲ開放シ且ツ蠻耗(Man hao)ノ地ハ老開ヨリ蒙自ニ至ル水路ノ要衝ニ當ルヲ以テ龍州蒙自ト同様該所ニ於テ貿易スルヲ許シ又在蒙自佛國領事館員一名ヲ同地ニ派駐セシムルコトヲ許ス(第一條)
  - (三) 天津條約第六、七條ヲ改正シ東京ヨリ雲南、廣西ノ貿易場ニ輸入スル外國貨物ニ對シテハ海關稅則ニ照ラシ十分ノ三ヲ減シ清國土貨ニシテ東京ニ輸出スルモノニ對シテハ十分ノ四ヲ減ス
  - (四) 清國土貨ニシテ同條約第十一條ニ照ラシ輸入稅ヲ完納シタル後東京ヲ經テ安南境ヨリ清國以外ノ外國へ輸送セラルモノハ出口ノ時佛安稅則ニ照ラシ輸出稅ヲ納ムヘシ
  - (五) 清國ハ阿片ノ陸路東京へ輸出ヲ許ス
  - (六) 軍艦及兵士、軍器ヲ運載スル船舶ヲ除クノ外諒山ヨリ龍州ヲ經テ高平(Ho-tsing)ニ至ル間ヲ航行往來スル一切ノ佛國航船ハ一船毎ニ一噸銀五分ノ噸稅ヲ納ムヘシ但シ其載貨ハ一切免稅ス
  - (七) 清國ニシテ將來其南境及西南境ニ關シ通商及交渉上最惠條約章程等ヲ締結スルトキハ佛國ハ再議ヲ庸ヒス直ニ之ニ均霑スルヲ得
- 清貨安南輸出稅
- 阿片
- 航江稅
- 最惠均霑

實施 調印

- (八) 本追加約款ハ天津條約ト共ニ批准交換後一體實施ス
- (九) 本約款ハ一、八八七年六月二十六日(光緒十三年五月六日)北京ニ於テ管理總理衙門慶親王及同衙門大臣孫毓汶ト佛國公使「コンスタン」トノ間ニ調印セララル
- (參照) 總稅務司出版條約集 七二三頁
- 特種條約彙纂 三三七頁

(附屬) 右追加通商約款ノ調印ニ先テ總理衙門ト佛國公使トノ間ニ於ケル往復文

(一) 慶親王ヨリ佛國公使「コンスタン」宛往翰

以書翰致啓上候陳者光緒十二年(一、八八六年)締結「天津條約補遺約款」並ニ光緒十一年(一、八八五年)締結「平和、修交並ニ通商ニ關スル天津條約」中尙不充分ナル箇所及修正ヲ加フヘキ點アルカ故双方合意ノ上更ニ通商條約十款及境界條約四款ヲ追加スルコト、ナシ追テ期ヲ擇ヒ調印セントス而シテ尙茲ニ双方ニ於テ決議セシ左ノ三ヶ條ヲ併セテ聲明致シ候

(一) 清國ヨリ東京ノ主要ナル都市ニ領事官ヲ設置スルノ件ハ暫ク猶豫シ他日該地方ノ情形ヲ查看シタル上之ヲ設置ス

(二) 清國ニ於テ河内、海防ノ兩處ニ領事ヲ設置シタル上ニテ佛國モ雲南、廣西ノ兩首府ニ領事ヲ設置スヘシ

(三) 龍州、蒙自及蠻耗ハ陸路通商ノ場所ニ係ルヲ以テ上海等ノ如キ開港場ノ例ニ倣ヒ租界ヲ



設クルヲ得ス

以上三ヶ條ハ追加約款内ニ記載ナキモ尙同様ノ効力ヲ有スルモノトス依テ右及照會候間何分ノ義御回答相成度此段得貴意候敬具

光緒十三年五月三日(一、八八七年六月二十三日)

(二) 佛國公使ヨリ慶親王宛返翰

(右ニ對シ何等異議ナキ旨同日付書翰ヲ以テ回答セリ)

第五、境界並ニ通商ニ關スル修正約款

甲、修正境界約款

前文ニ曰ク「紅江ヨリ湄江ニ至ル清國、東京間ノ境界勘明ヲ了シタルヲ以テ茲ニ一、八八七年(光緒十三年)締結追加境界約款ヲ更正修全スル爲メ左ノ辦法ヲ商定ス」  
其要領ヲ記サンニ

江洪  
立界

(一) 上部湄江ノ東岸迄佛國領土ヲ擴張シ以テ江洪ニ屬スル該河畔ノ地ハ總テ佛國領土タルコトヲ確認シタリ

(二) 追テ兩國ヨリ員ヲ派シ界標ヲ立ツ

調印

(三) 本約款ハ一、八九五年六月二十日(光緒二十一年五月二十八日)北京ニ於テ管理總理衙門慶親王及同衙門大臣徐ト佛國公使「ゼラール」トノ間ニ調印セララル

(参照) 總稅務司出版條約集 七八〇頁

乙、修正通商約款

前文ニ曰ク「湄江ニ至ル清安境界已ニ勘定シタルヲ以テ清佛兩國政府ハ右邊界ニ於ケル兩國ノ通商往來ヲ獎勵シ一、八八六年(光緒十二年)天津ニ於テ締結セラレタル通商條約及一、八八七年(光緒十三年)北京ニ於テ續締セラレタル追加通商約款ノ實施ヲ完全ナラシムル爲メ左ノ通り協定セシム」

其要項ニ曰ク

東興領事官  
墨耗ヲ河口ニ改ム  
思茅ノ開放  
清國へ再輸入

- (一) 佛國ハ安南芒街 (Monay) ニ相對スル廣東省東興街 (Jong hing) ニ領事官ヲ駐劄セシメ邊界ノ警察ニ利ス兩國官員會同巡查ノ件ニ關シテハ後日章程ヲ定ム
- (二) 追加通商約款第二條中墨耗ヲ改メテ河口 (Ho keon) トナシ佛國ハ同地ニ在蒙自領事館ノ一員ヲ派出シ又清國ハ海關員一名ヲ置クヘシ
- (三) 思茅 (So mo) ナ開放シ佛國領事官ノ駐劄ヲ許ス清國ハ又同地ニ一海關員ヲ置ク
- (四) 天津通商條約第九條ヲ次ノ通り修正ス
  - 一、龍州、蒙自、思茅、河口ノ四通商場ニ於テ十分ノ四減稅ヲ納メ完稅憑單ヲ受領シ輸出シタル清國土貨ニシテ安南ヲ經過シテ更ニ同所ヨリ清國ニ輸入スルモノハ輸入稅ヲ免ス
  - 二、上記四所ニ於テ十分ノ四減稅ヲ納メ完稅憑單ヲ受領シ輸出シタル清國土貨ニシテ更ニ清國沿海又ハ沿江通商港ニ向ケラル、モノハ土貨再輸入ノ例ニ照ラシ再輸入半稅ヲ納ムヘシ
  - 一、清國沿海又ハ沿江通商港ヨリノ輸出正稅ヲ納メ完稅憑單ヲ受領シ輸出シタル清國土貨ニシテ更ニ上記四所ヨリ清國ニ輸入スルモノハ十分ノ四減稅ニ按照シ再輸入半稅ヲ納ムヘシ
  - 一、完稅憑單ヲ帶同シ輸出スヘキ土貨ニシテ未ダ各關ヲ通過セサルモノ或ハ再輸入スヘキ土貨ニシテ既ニ各關ヲ通過シタルモノハ普通土貨例ニ照ラシ處理ス

開礦鐵道

- (五) 清國將來雲南、廣西、廣東ニ於テ開礦スル時ハ先ツ佛國工業家及技師ニ向ツテ開礦事宜ヲ謀ルヘシ
- 安南鐵道ニシテ既ニ完成セルモノ又ハ將來築造スヘキモノナ兩國協議ノ上清國界内ニ延長スルヲ得

電綫  
不援用  
實施

- (六) 思茅ト安南ノ孟阿營間ノ電綫ヲ接續ス
- (七) 本條款ハ相互讓歩ノ結果ニ成ルモノナレハ之ヲ他ニ援用スルヲ得ス
- (八) 本約款ハ一、八八七年(光緒十三年)締結追加通商約款ト一體ニ施行スヘク又本約款ニヨリ更改セラル、モノ、外前訂各條約章程等ハ一律遵守スヘシ
- (九) 本約款ハ一、八九五年六月二十日(光緒二十一年五月二十八日)北京ニ於テ管理總理衙門慶親王及同衙門大臣徐ト佛國公使「ゼラール」トノ間ニ調印セララル

(參照) 總稅務司出版條約集 七二五頁

調印

香港及澳門ノ割讓並ニ通商ニ關スル條約